

3:1 【主】よ。なんと私の敵がふえてきたことでしょうか。私に立ち向かう者が多くいます。 3:2 多くの者が私のたましいのことを言っています。「彼に神の救いはない」と。 セラ 3:3 しかし、【主】よ。あなたは私の回りを囲む盾、私の栄光、そして私のかしらを高く上げてくださる方です。 3:4 私は声をあげて、【主】に呼ばれる。すると、聖なる山から私に答えてくださる。 セラ 3:5 私は身を横たえて、眠る。私はまた目をさます。【主】がささえてくださるから。 3:6 私を取り囲んでいる幾万の民をも私は恐れない。 3:7 【主】よ。立ち上がってください。私の神。私をお救いください。あなたは私のすべての敵の頬を打ち、悪者の歯を打ち砕いてくださいます。 3:8 救いは【主】にあります。あなたの祝福があなたの民の上にありますように。 セラ

### はじめに

クリスチャン人生は常に悪との戦いであると、聖書は明確に教えます。

ペテロ第一 4:12 愛する者たち。あなたがたを試みるためにあなたがたの間に燃えさかる火の試練を、何か思いがけないことが起こったかのように驚き怪しむことなく、

クリスチャンは、悪との戦いの未経験者であってははいけません。

クリスチャンの人生とはおもに、神の栄光のための戦いです。

その戦いは、サタンとその手下に対する戦いです。

テモテ第二 3:12 は、「確かに、キリスト・イエスにあつて敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。」と語ります。

私たちの生きる現代社会は、世界規模のキリスト教迫害へと急激なペースで動いています。

最終的には、世界中の人々がひとつの共通宗教を押し付けられるようになるでしょう。

現時点では、日本にいればクリスチャンに対する迫害から守られているように感じるかもしれませんが。

けれども、日本には現在 10 万人を超えるイスラム教徒が住んでいます。そして、安倍首相は日本におけるイスラム教の発展を後押ししていると言われます。ですから、イスラム教がこの国に根付くのも時間の問題でしょう。そしてついには、日本人のキリスト教に対する考えにも影響を及ぼすこととなるでしょう。

ですから、日本でのクリスチャンに対する迫害は、この教会の若い人たちが生きている間に現実のものとなる可能性があります。

ですから、私たちは祈り、全能の神の力によってしっかりと立っている必要があります。

ダビデは詩篇 3 篇で、自身の悪との戦いについて語ります。そして、その状況の中で神がどのように助けてくださったかを語ります。

詩篇 3-7 篇をひとくくりにして、小シリーズとしたいと思います。

詩篇 3 篇は、悪との戦いについてです。

詩篇 4 篇と 6 篇は、状況に対する戦いについてです。

詩篇 5 篇と 7 篇は、中傷する人たちに対する戦いについてです。

### 詩篇 3 篇—悪との戦い

まず、この詩篇の歴史的背景を見ましょう。

ダビデがこの詩篇を書いたのは、息子アブサロムの謀反によって、エルサレムを追われた後でした。

アブサロムは、神に油注がれた王ダビデに人々を敵対させようと、以前から動いていました。

これについては、サムエル記第二 15-18 章に記されています。

ダビデは、息子アブサロムの数々の罪を赦しましたが、それでもアブサロムはイスラエルの実権を握り、新たな王となるチャンスを狙っていました。

当時、悪が勝利したかに見えました。神に油注がれたダビデは、失脚し放浪の人生を歩まざるを得ないと思われました。

しかし、どのような状況でも、最終的な結果は必ず神が決められます。

### 1. ダビデは、激しい苦しみを神の御前に認めた。(1-2 節)

ダビデは、神の御前で自身の置かれた状況の深刻さを打ち明けます。

そして、たくさんの方が自分に敵対していると繰り返します。

ダビデはかつて、人々に慕われた王でした。正義と公平をもって国を治めていました。国民を守り、ニーズに応えました。

しかし今では、逃亡者に成り下がりました。人々は、ダビデが神に見放されたのだと思いました。

それで、「彼に神の救いはない」と言いました。

ダビデがどんな気持ちだったか想像してみてください。

身分の低い羊飼いだった男の子が、その心のきよさゆえに神に選ばれました。

サムエル第一 16:7 しかし【主】はサムエルに仰せられた。「彼の容貌や、背の高さを見てはならない。わたしは彼を退けている。人を見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、【主】は心を見る。」

彼は、巨人ゴリアテを倒してイスラエルを救いました。(サムエル第一 17 章)

ダビデは常に、神に仕える力を与えてくださるのは神ご自身だと心得ていました。

サムエル第一 17:37 ついで、ダビデは言った。「獅子や、熊の爪から私を救い出してくださった【主】は、あのペリシテ人の手からも私を救い出してくださいます。」サウルはダビデに言った。「行きなさい。【主】があなたとともにおられるように。」

ダビデは、長年逃亡生活を送りました。神に従わなかったことで神に退けられたサウル王から、命を狙われたからです。

ダビデにはサウルの命を奪うチャンスがありましたが、そうはしませんでした。サウルはどのように振舞っていても、神に油注がれた者だったからです。

サムエル第一 24:10 実はきょう、いましがた、【主】があこのほら穴で私の手にあなたをお渡しになったのを、あなたはご覧になったのです。ある者はあなたを殺そうと言ったのですが、私は、あなたを思って、『私の主君に手を下すまい。あの方は【主】に油そそがれた方だから』と申しました。

ダビデはただ、自らの人生をとおして神をたたえようとする謙虚な人でした。

しかし、そんなダビデを神が見捨てられたかのようなのでした。ダビデは、息子アブサロムとその手下の悪事によって苦しめられていました。

ダビデは孤独でした。絶望し、神に自分の心のうちをさらけ出しました。

### 適用

この詩篇は、現代に通じる詩篇です。今の世の中は、悪が善に勝っているように見えます。

聖書の教えに従う人々が、神の助けをいただいていないように思えます。

けれども、私たちクリスチャンは覚えておかななくてはなりません。イエスはすでにサタンと死に対して勝利しておられます。

イエスは死からよみがえられました。それは、私たちもいつか死と悪に打ち勝つ日が来ると確信させるためです。

私たちクリスチャンは戦いの只中にいますが、私たちは勝利者の側にいます。

神に信仰を置く人々を、神がお見捨てになることは決してありません。

とは言え、悪に満ちた世の中に生きる私たちが直面する問題について、神に助けを求めて叫ぶのは間違っていない。

私たちが悪と格闘するときに神に向かって叫ぶのを、神は望んでおられます。

詩篇のすばらしい点は、そこに現実の難題と立ち向かった実在の人たちが描かれていることです。

その困難は、彼らの霊性が招いたものではありません。

ダビデは、神のみこころにかなった人でしたが、苦しみました。

しかも、息子に苦しめられるというもっともつらいかたちでやってきました。

## 2. ダビデは、神に信頼と確信を置いた。(3-6 節)

3-6 節で、ダビデは神がなしてくださると信頼している事柄を挙げています。

### a) ダビデは、自分の叫びを神が聞いてくださることを求めている。(4 節)

聖書の神が自分の叫びを聞いてくださるといふダビデの確信は、間違っていない。

ダビデは、助けを求める自らの叫びを神が聞いてくださったと語ります。

神が祈りを聞いてくださっているとダビデは確信していました。これはすばらしいことです。

ダビデは、神と親しく交わっていました。日々神と語り、神が彼のために事をなしてくださるのを何度も見ました。

心の叫びを神が聞き届けてくださったと知るだけで、ダビデには十分でした。

自分の願うことを神に無理やりさせることはできません。けれども、そのときに最善と神が考えられることをなせる力が神にはあるとダビデは知っていました。

ダビデは苦しんでいましたが、神を待ち望む者のために神が働いてくださることを確信していました。

イザヤ書 30:18 それゆえ、【主】はあなたがたに恵もうと待っておられ、あなたがたをあわれもうと立ち上がられる。【主】は正義の神であるからだ。幸いなことよ。主を待ち望むすべての者は。

### 適用

現代は、インターネットをとおして誰とでもつながれます。

スマホを使って銀行口座の残高の確認や、海外への送金までできます。

メッセージなどを使えば電話もできますし、ツイッターやユーチューブを使えば世界中の人たちとつながれます。

けれども、私たちが本当に必要としているもっとも大切なつながりは、私たちが造られた神、聖書の神とのつながりです。

ダビデにとって、携帯電話会社との契約は要りませんでした。創造主なる神との一対一の関係は必要でした。

ダビデは、聖書の神と一対一関係を築いていました。

私たちも、神への叫びを神が聞いてくださるといふ確信がほしいなら、創造主なる神との一対一のつながりが必要です。

それには、私たちのうちにある罪と向き合わなければなりません。

私たちの罪を赦すことのできるお方は唯一、イエス・キリストだけです。

このお方が、私たちのすべての罪の罰を負って死んでくださったからです。

イエスは、私たちの身代わりのいけにえでした。私たちの代わりに死なれたのです。

イエスが死なれたのは、私たちの罪が赦されて、神との関係を取り戻すためです。

イエスに信仰を置くなら、私たちの祈りを神が聞いてくださるといふ確信が心に与えられます。

いったん罪が赦されたら、神の御座の前に出ることができるようになります。

私たちは、天の神が祈りを聞いてくださると確信しつつ祈ることができます。なんとすばらしいことでしょう。

**b) ダビデは、落胆した気持ちに神が対処してくださると信頼した。(3節)**

ダビデは、神が頭をあげさせてくださると信頼していました。

落ち込むと、人はうつむきがちになります。

ダビデは、気落ちした心に神が対処してくださると信じていました。

日本を含む多くの国で、うつ症状は大きな問題となっています。

多くの人々が軽いうつ状態を経験したことがあります。

クリスチャンも例外ではありません。

しかし、うつ状態は多くの場合、私たち自身の考え方が過剰にネガティブになってしまうことによって引き起こされるので、ダビデは、神がそのようなネガティブな思いを取り除いてくださると信頼しています。

神はダビデを見捨てた、神はダビデを助けてくださらない、と人に言われても、そのような敵の考え方は間違っていると、ダビデは悟っていました。

ダビデは、人の言葉ではなく、神のみことばに心を集中させれば、憂鬱から解放されると知っていました。

私たちも落ち込んだ気持ちを神のもとに携えて、助けを求めてよいのです。

けれども、その解決の糸口は、自分自身のネガティブな考えや気持ちを信頼するのではなく、神とのみことばを信じることにあります。

新約聖書は、良い事柄に心を向けるようにと教えます。

**ピリピ 4 : 6-9**

**4:6** 何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。 **4:7** そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。 **4:8** 最後に、兄弟たち。すべての真実なこと、すべての誉れあること、すべての正しいこと、すべての清いこと、すべての愛すべきこと、すべての評判の良いこと、そのほか徳と言われること、称賛に値することがあるならば、そのようなことに心を留めなさい。 **4:9** あなたがたが私から学び、受け、聞き、また見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神があなたがたとともにいてくださいます。

**c) ダビデは、神が自分を取り囲む盾になってくださると信じていた。(3節)**

盾とは、兵士が飛んでくる矢から自分の身を守るために持つ武器です。

ダビデは、神に自分の盾になっていただくことを望みました。

神が霊肉ともに飛んでくる矢から守ってくださることを望んでいたのです。

**エペソ 6:16** これらすべてのものの上に、信仰の大盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢を、みな消すことができます。

ダビデは、霊的な矢と目に見える矢の両方の攻撃を受ける状況でした。

それで、神がおできになると確信していたことを神に願い求めました。

神は確かに、ダビデを守ることがおできになります。

ダビデは、それまでのあらゆる経験から、神の御力を知っていました。

また、神の守りの御手も経験していました。

それで、今回置かれた苦境の中でも神が守ってくださると確信できました。

私たちも、神の守りを祈ることがあります。けれども、神がどれほどのことをして私たちを守ってくださったかは気づかないかもしれません。

あるアフリカの宣教師は、神が彼を死から守るためにどれほどのことをしてくださったかを知ることができました。

これは、実話です。

アフリカで働くある宣教師がいました。彼はある日、二日間の道のりを旅して町まで行き、薬と医療品と現金を受け取りました。

しかし、ある強盗団が彼を殺してその薬と医薬品と現金を奪おうと企んでいました。その宣教師は、後に強盗団のひとりの自白によってそのことを知りました。その強盗団のメンバーは、夜中ずっとテントの周りに武装した警備員が 26 人もいたので、宣教師を殺せなかったと言いました。

宣教師はそんなことがあるはずないと言いましたが、強盗団は皆口をそろえてそう言いました。

宣教師が帰国し、母教会でこのことを話すと、ある男性が立ち上がって、その事件があったのはいつかと尋ねました。

宣教師が日付を答えると、その男性は驚きました。

その日はちょうど、その教会員がその宣教師のためのとりなしをするようにという重荷を強く感じた日でした。

あまりにも強く示されたので、彼はゴルフ仲間を全員集め、宣教師の守りのためにいっしょに祈りました。

その祈祷会には 26 人が参加していました。宣教師を死から守った警備員の数と完全に一致します。

神が奇跡を起こして守られたのです。

ここで学ぶべきことは、私たちも誰かのためにとりなすよう示されたなら、それにしたがって祈ることです。

世界中の人を守るために、私たちの祈りがどのように用いられるか、私たちには知る由もないからです。

**d) ダビデは、恐れず大胆でいられるように神が助けくださると信じていた。(6 節)**

ダビデは、一万人の敵に四方から囲まれても恐れないと語ります。

ずいぶん大胆な発言です。

しかし、ダビデはそのような大胆さを神が顧みてくださると信じてそう言ったのです。

神を頼みとする大胆さは間違っていない。

聖書には、アラム軍の攻撃を前にエリシャが神を信頼した出来事が記されています。

**列王記第二 6 : 8-18**

6:8 アラムの王がイスラエルと戦っていたとき、王は家来たちと相談して言った。「これこれの所に陣を敷こう。」 6:9 そのとき、神の人はイスラエルの王のもとに人をやって言った。「あの場所を通らないように注意なさい。あそこにはアラムが下って来ますから。」 6:10 イスラエルの王は神の人が告げたその場所に人をやった。神の人が警告すると、王はそこを警戒した。このようなことは一度や二度ではなかった。 6:11 このことで、アラムの王の心は怒りに燃え、家来たちを呼んで言った。「われわれのうち、だれが、イスラエルの王と通じているのか、あなたがたは私に告げないのか。」 6:12 すると家来のひとりが言った。「いいえ、王さま。イスラエルにいる預言者エリシャが、あなたが寝室の中で語られることばまでもイスラエルの王に告げているのです。」 6:13 王は言った。「行って、彼がどこにいるかを突き止めなさい。人をやって、彼をつかまえよう。」そのうちに、「今、彼はドタンにいる」という知らせが王にもたらされた。 6:14 そこで王は馬と戦車と大軍とをそこに送った。彼らは夜のうちに来て、その町を包囲した。 6:15 神の人の召使いが、朝早く起きて、外に出ると、なんと、馬と戦車の軍隊がその町を包囲していた。若い者がエリシャに、「ああ、ご主人さま。どうしたらよいのでしょうか」と言った。 6:16 すると彼は、「恐れるな。私たちとともにいる者は、彼らとともにいる者よりも多いのだから」と言った。 6:17 そして、エリシャは祈って【主】に願った。「どうぞ、彼の目を開いて、見えるようにしてください。」【主】がその若い者の目を開かれたので、彼が見ると、なんと、火の馬と戦車がエリシャを取り巻いて山に満ちていた。 6:18 アラムがエリシャに向かって下って来たとき、彼は【主】に祈って言った。「どうぞ、この民を打って、盲目に

してください。」そこで主はエリシャのことばのとおり、彼らを打って、盲目にされた。

現代社会で、私たちが神への信仰をダビデと同じように主張したなら、正気でないと思われるかもしれません。

けれども、私たちが今礼拝しているのは、ダビデやエリシャが信頼し、敵から救い出していた、まさにその神です。

聖書の神に問題があるわけではありません。また、御民を守り救い出す神の力に問題があるわけでもありません。

問題は、神が奇跡をなす力をお持ちであることを信じる神の民の信仰にあります。

### **3. ダビデは、敵に神の裁きがくだるのを待っている。(7節)**

聖書の訳によっては、7節のこの部分に過去形が使われているものがあります。

神が過去に与えてくださった勝利をダビデが振り返っているというとらえ方です。

他の訳では、現在と未来の勝利を求める祈りとして、この箇所をとらえます。

いずれにせよ、ダビデは神が自分の前を進み、アブサロム率いる軍を倒してくださると信じていました。

そして、神はまさにそのとおりにしてくださいました。

「私のすべての敵の頬を打ち」という表現は、辱める行為を示します。

歴史上の出来事によって、神はダビデの正当性を示し、アブサロムの謀反を罰せられました。

私たちクリスチャンは次のことを確信できます。聖書において、神は、正義と裁きの神として描かれていることです。

神は、人に悔い改める猶予をお与えになりますが、最終的には、悔い改めない人に裁きをくだされます。

### **4. ダビデは、神のみが勝利を与えてくださるお方だと認めている。(8節)**

イザヤ書 42:8 わたしは【主】、これがわたしの名。わたしの栄光を他の者に、わたしの栄誉を刻んだ像どもに与えはしない。

アブサロムとダビデには、大きく異なる部分がありました。それは、ダビデが神の栄光を求めていたのに対し、アブサロムは自分の名を上げることばかり求めていたことです。

神は、ご自分の民から誰かを選んで何かをなされることがあります。

けれども、神の民の祝福を伴う活動の結果は常に、神にささげなければなりません。

すべてのクリスチャンは、何らかのかたちで神に祝福を受けたなら、その祝福が自分の努力の成果ではなく、全能の神のおかげであると認識する必要があります。

要するに、神の栄光がかかっているのです。

祈って神にある状況をゆだねたら、神が栄光と賛美と感謝をお受けになります。

詩篇 3 篇はすべてのクリスチャンへの励ましです。

私たちは悪い時代に生きています。世の中はすべての善良なこと、聖書の神、そして神の子どもたちに敵対しているようです。それでも、神と一対一のつながりを持っているなら、神は私たちの叫びを聞いてくださいます。

神は、神と神の子たちの敵に、いずれ裁きをくだされます。

一方、主イエス・キリストによって神の子とされた人々には、いずれ祝福をくださいます。

私たちの心がイエス・キリストにしっかりとつながっているなら、私たちの未来は安泰です。

アーメン。